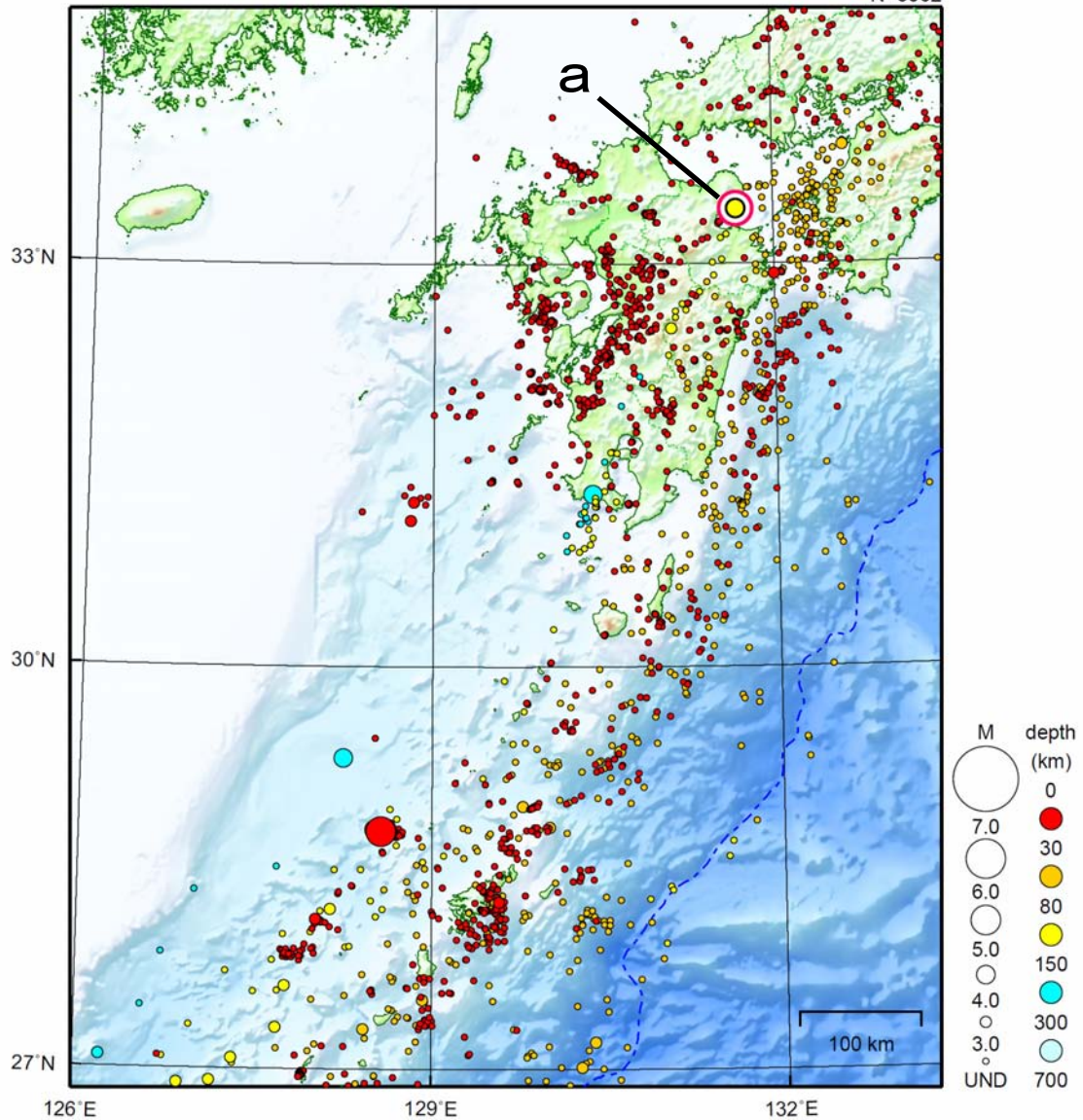


# 九州地方

2010/05/01 00:00 ~ 2010/05/31 24:00

N=3062



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 5月13日に国東半島付近で M4.7 の地震（最大震度 3）が発生した。

気象庁はこの地震に対して[伊予灘]で情報発表した。

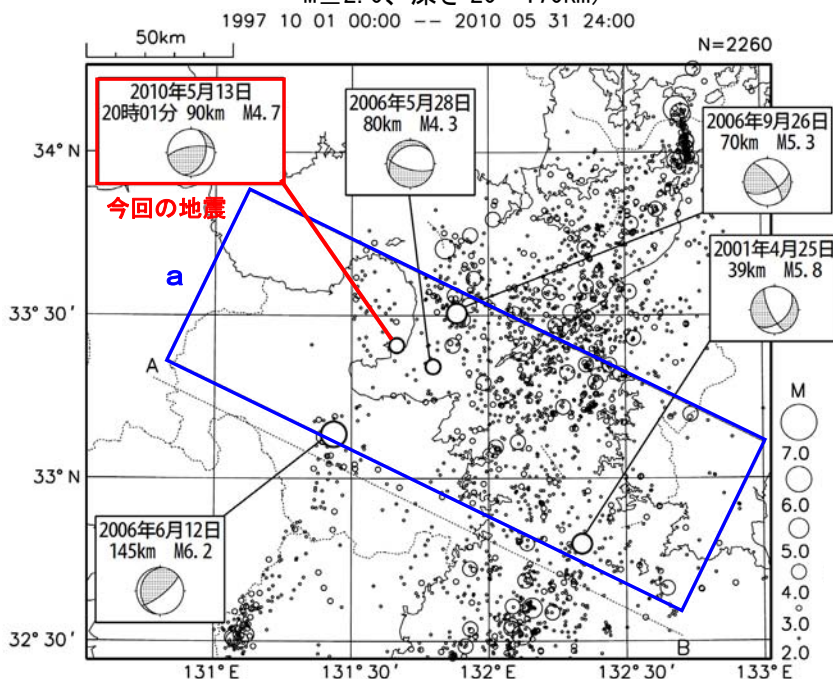
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

# 5月13日 国東半島付近の地震

震央分布図 (1997年10月1日~2010年5月31日、  
M $\geq$ 2.0、深さ20~170km)

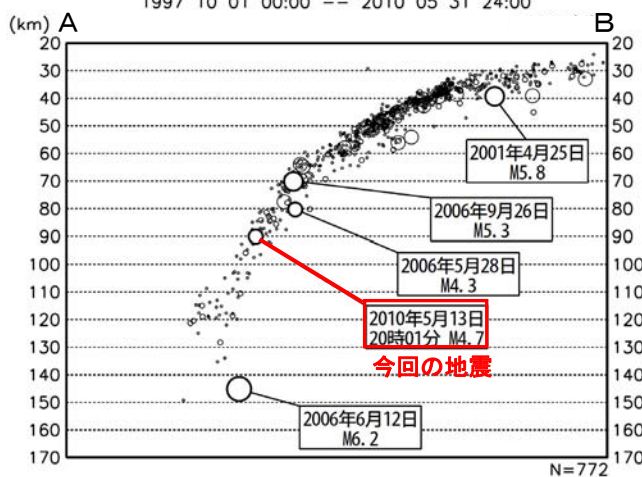
気象庁はこの地震に対して〔伊予灘〕で情報発表した



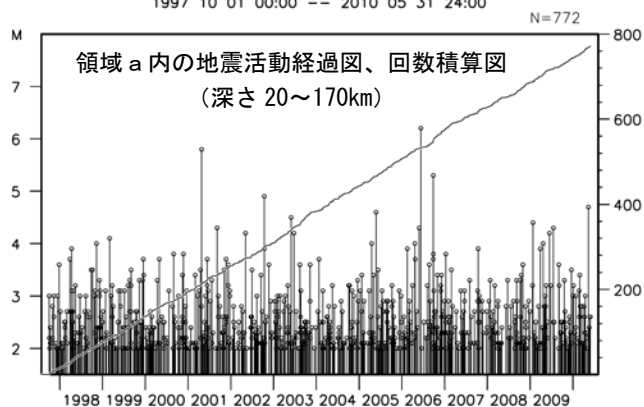
2010年5月13日20時01分に国東半島付近の深さ90kmでM4.7(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は北北東-南南西方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレートの内部で発生した地震である。余震は観測されていない。

今回の地震の震源周辺(領域a)では、ほぼ定常的に地震活動があり、M4~5程度の地震が時々発生している。最近では2006年6月12日に深さ145kmでM6.2の地震(最大震度5弱)、2006年9月26日に深さ70kmでM5.3の地震(最大震度4)が発生している。いずれも沈み込むフィリピン海プレートの内部で発生した地震である。

領域a内の断面図 (A-B投影)  
1997 10 01 00:00 -- 2010 05 31 24:00

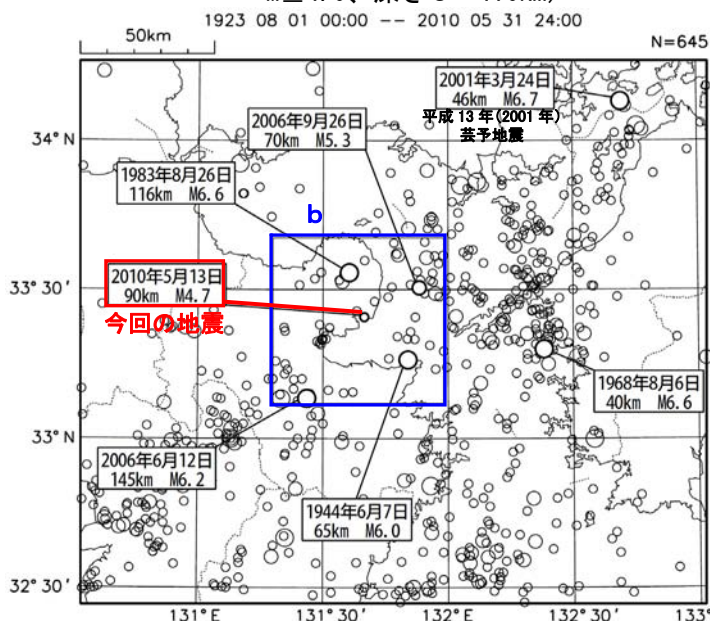


1997 10 01 00:00 -- 2010 05 31 24:00

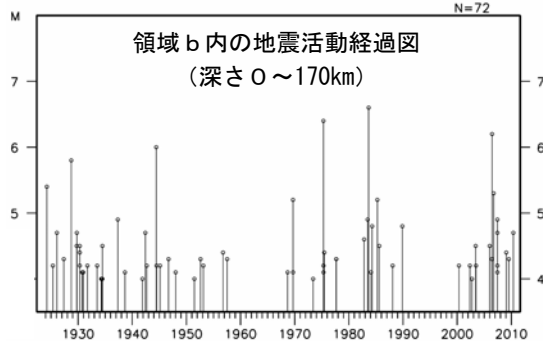


震央分布図 (1923年8月1日~2010年5月31日、  
M $\geq$ 4.0、深さ0~170km)

1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域b)では、M4.0を超える地震が時々発生している。最近のM6.0を超える地震としては、1983年8月26日に深さ116kmでM6.6の地震(最大震度4)、2006年6月12日に深さ145kmでM6.2の地震(最大震度5弱)が発生し、2006年の地震では負傷者8人、住家一部破損5棟の被害を生じた(総務省消防庁による)。

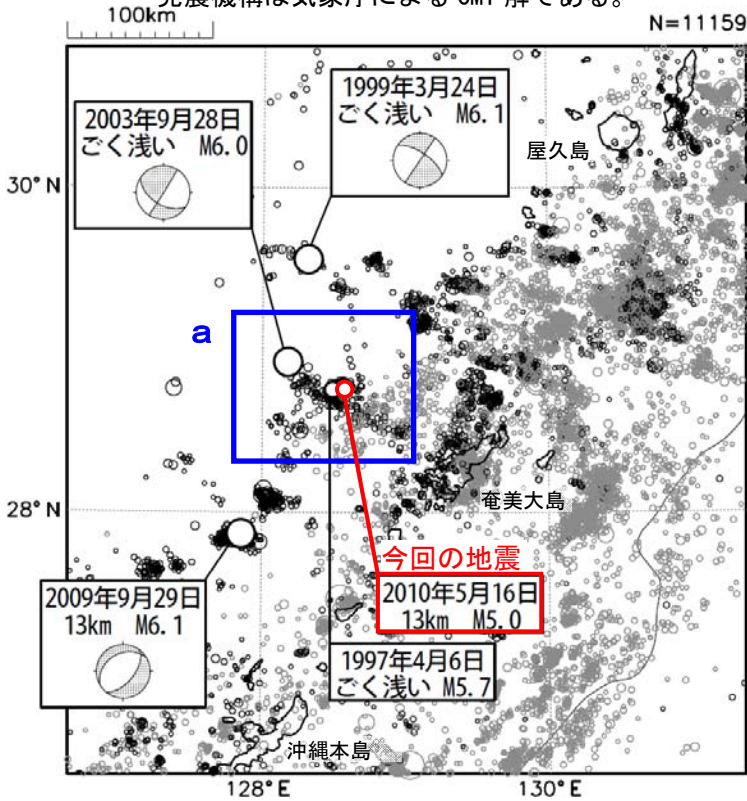


1923 08 01 00:00 -- 2010 05 31 24:00



# 5月16日以降 奄美大島北西沖の地震活動

震央分布図 (1997年1月1日~2010年6月5日、  
 $M \geq 2.5$ 、深さ0~80km)  
 深さ0~25kmの地震の震源を濃く表示。  
 発震機構は気象庁によるCMT解である。

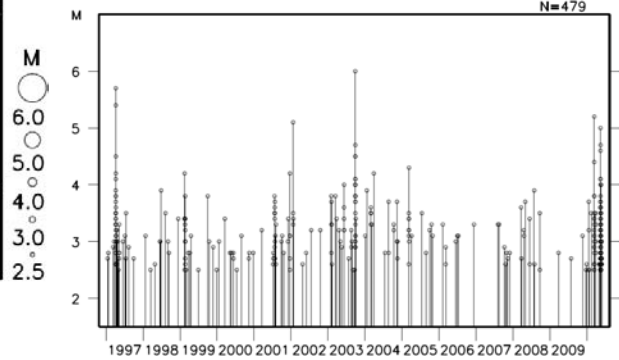


2010年5月16日早朝から奄美大島北西沖でやや活発な地震活動があった。最大の地震は16日21時35分に発生したM5.0の地震(最大震度2)である。また、震度1以上を観測する地震が9回発生した。6月5日現在、活動は徐々に収まってきている。

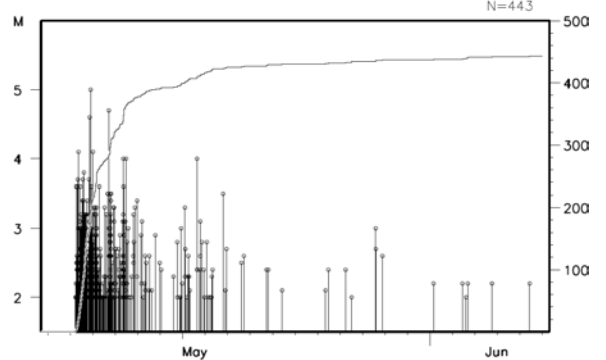
1997年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域a)は周囲に比べて地震活動が比較的活発な場所である。

今回の地震の震央近傍では1997年4月にもM5.0以上の地震2つを含む活動があった(1997年4月は、今回の活動期間に比べて検知能力や震源決定精度がやや劣っているため、地震の数や震央の広がりについて単純な比較はできない)。

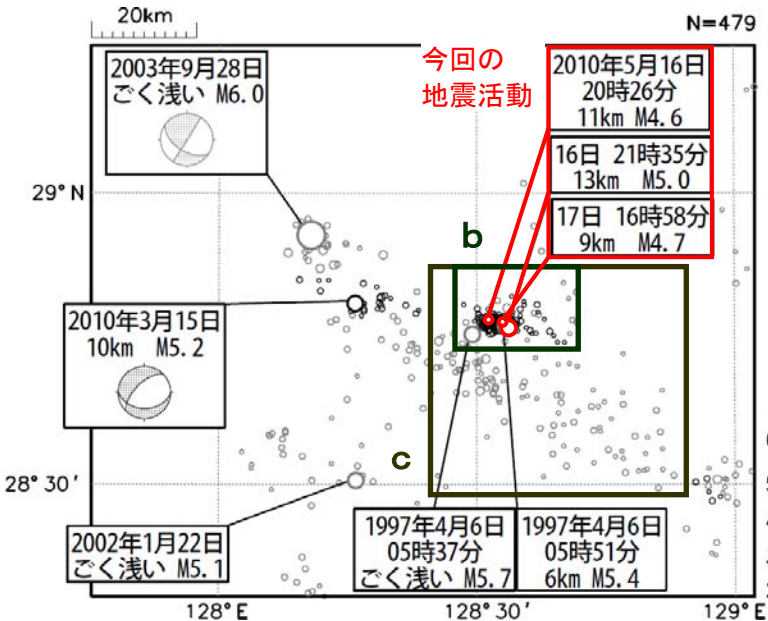
領域a内の地震活動経過図 (1997年1月1日~2010年6月5日、 $M \geq 2.5$ )



領域b内の地震活動経過図、回数積算図 (2010年5月15日~6月5日、 $M \geq 2.0$ )



領域a内の震央分布図 (1997年1月1日~2010年6月5日、  
 $M \geq 2.5$ 、深さ0~25km)  
 2010年1月以降の地震の震央を濃く表示。  
 発震機構は気象庁によるCMT解である。



領域c内の地震活動経過図、回数積算図 (1997年4月5日~4月26日、 $M \geq 2.0$ )

